

編集後記

2020年は、会員の皆様にとり生涯の記憶に残る大変な1年間であったと思います。逆境であればこそ起死回生の戦略に様々な思いを巡らす時だと前向きに取り組むものかもしれません。

誌上ギャラリーは 池田敏郎先生から「出航・自由な時代へ」と題して青空を背景に青い海に浮かぶ長崎の瑞島（軍艦島）をご寄稿いただきました。2015年に軍艦島を構成資産に含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が国際記念物遺跡会議により世界文化遺産として登録されました。日本の誇りです。

論説と話題は、年末のご挨拶を長友副会長、内科医会・外科医会・産婦人科医会・小児科医会・耳鼻咽喉科医会・泌尿器科医会の各医会会长、中央事務局、臨床検査センター、医師会病院、夜間急病センターからご寄稿いただきました。2020年の振り返りでは、コロナ関連の出来事が多く記載されておりますが、大変な環境の中でもそれをおいての活動が停滞しない努力をされておられる事が良くわかります。来年も宜しくお願ひします。

トピックスは、新臨床検査センター建設進捗状況報告です。2021年1月には稼働開始となります。

医療トピックスは、鹿児島市医師会病院薬剤師 中島 誠先生から「近年登場した抗MRSA薬について」（共同執筆：崇城大学薬学部 薦田光弘先生）をご寄稿いただきました。オキサゾリジノン系薬のテジゾリドリン酸エステル（シベクトロ[®]）を詳細に解説いただきました。

学術は、医師会病院ペインクリニック内科 園田拓郎先生から、「椎間板ヘルニアと鑑別が困難であった頸椎椎間関節症の一例」を報告いただきました。日常診療で多くみる疾患だが画像所見での診断が困難なため積極的に治療されない疾患だそうです。貴重な報告を有難うございました。

鹿児島市内科医会9月例会の講演をもとに鹿児島大学病院感染制御部 西 順一郎教授より、11月中旬までの状況を振り返り

「鹿児島県のCOVID-19の現状と外来診療上の課題」をご寄稿いただきました。病態、治療国内外の感染状況、外来診療における課題、今後の展望について詳細な解説があります。会員の先生方は是非精読されますようお願いします。

随筆・その他では、古庄弘典先生から切手が語る医学（No.241）「医師・偉人・著名人・科学者」です。いつも貴重な切手のご紹介、有難うございます。

武元良整先生からビタミンB₁₂欠乏症と感染症の関係から4症例をご紹介いただきました。

リレー随筆は、今村総合病院研修医 伊井誠先生から寄稿いただきました。初期研修医を鹿児島の地で過ごし、患者さんにふれることで多くの事を学んだ思いをまとめて書いてあります。今後さらに多くの患者さんならびに周りの人々と接して大きな経験を積まれる事だと思います。頑張って下さい。

区・支部だよりは、郡元支部会を鮫島久子先生からご報告いただきました。

各種部会だよりは、市泌尿器科医会総会について、小田代昌幸先生からご報告いただきました。

各種報告は、理事会の概要、委員会報告、第3回支部長会、鹿児島市学校検診（心臓、腎臓、糖尿病検診）の報告、救急の日、小児生活習慣病予防検診の報告がありました。また前半期の学校保健活動、健康教育活動についての報告がありました。

附属施設だよりは、鹿児島市医師会病院、検査センターの9月分の実績・収支の報告です。今後ともご紹介・ご利用を宜しくお願い申し上げます。

鹿市医郷壇の題吟は、最早（もへ）です。今月もご寄稿いただきまして有難うございました。

来年の干支は辛丑で「変化が生まれる年で全く別のものから活路がみいだせる」という意味があるそうです。来年が会員の皆様にとりましてより良い年でありますように祈念いたしております。

（編集委員長 帆北 修一）